

子どもの学習・生活支援事業における令和7年度の実績報告及び令和8年度の進捗状況

項目	令和7年度の実績	令和8年度の実績	令和8年度の進捗（7月末時点）	
学習支援	・学校の勉強の復習・学習の習慣づけ・学びなおし 【独自の学習支援メソッドによる学習意欲の向上とスタディスキルの獲得支援】 ①理解度確認テスト ②特性に合わせたスタディスキル獲得支援 ③子どもの興味・関心に合わせた教材選定 ④わかる単元から始めるさかのぼり学習 ⑤家庭学習に繋がる学習の習慣づけ ・高校受験のための進学支援 中3生が希望する高校へ進学できるよう、進路情報の提供や受験対策を実施	・学校の勉強の復習・学習の習慣づけ・学びなおし 子ども一人ひとりの状況に合わせ、メソッド①～⑤を実施中。 初回面談時に教室での学習の進め方についての希望を確認しており、小中学生に関しては学校教材の利用希望があることを確認済。 基本的には学校の宿題等に取り組むが、持参課題を終えた際には本人にとって少しだけ簡単に感じる教材を用意し、「できる」「おもしろい」と感じることで自己肯定感の向上につなげている。 ・高校受験のための進学支援 令和7年度は中3生の利用登録はなく、中1～2生向けに進学を見据えた学習支援（提出課題のサポート、既習範囲の復習等）を実施。 必要に応じ、中学生へは高校進学に向けた情報提供を行った。	・学校の勉強の復習・学習の習慣づけ・学びなおし 【独自の学習支援メソッドによる学習意欲の向上とスタディスキルの獲得支援】 ①理解度確認テスト ②特性に合わせたスタディスキル獲得支援 ③子どもの興味・関心に合わせた教材選定 ④わかる単元から始めるさかのぼり学習 ⑤家庭学習に繋がる学習の習慣づけ ・高校受験のための進学支援 中3生が希望する高校へ進学できるよう、進路情報の提供や受験対策を実施	・学校の勉強の復習・学習の習慣づけ・学びなおし 子ども一人ひとりの状況に合わせ、メソッド①～⑤を実施中。 初回面談時に教室での学習の進め方についての希望を確認しており、小中学生に関しては学校教材の利用希望があることを確認済。 基本的には学校の宿題等に取り組むが、持参課題を終えた際には本人にとって少しだけ簡単に感じる教材を用意し、「できる」「おもしろい」と感じることで自己肯定感の向上につなげている。 ・高校受験のための進学支援 中3生に対し、志望校の過去問対策を含む受験支援を実施中。 適宜オープンスクールや学校見学会等の案内を実施し、特に申込手続きを不得手とする保護者のいる世帯には高頻度で案内や周知を実施。
生活支援	・日常生活習慣の形成・改善支援 ①初回面談や学習支援中の会話、様子から生活面の課題把握 ②アセスメント ③できることを一緒に考える・目標設定 ④実践 ⑤改善に向けたアドバイス ・社会性の育成 他者との交流を通じてコミュニケーション力を高め、社会性の向上を目指す。 必要に応じて遊びを取り入れた季節のイベントなどを実施し「体験格差の解消」にも寄与。	・日常生活習慣の形成・改善支援 ①初回面談や学習支援中の会話、様子から生活面の課題把握 ②アセスメント ③できることを一緒に考える・目標設定 ④実践 ⑤改善に向けたアドバイス ・社会性の育成 7月には、七夕イベントとしてクイズ大会を開催。 七夕の由来や天体に関する知識を深め、遊びの要素を取り入れながら学習意欲の喚起にも繋げた。 実施場所に設置された大きな笹へ、参加者全員が願い事を書いた短冊をかざるなど、季節行事を楽しみ、体験格差の解消に寄与した。 12月には、クリスマスイベントを実施。文化的な体験を提供するとともに、通常の学習支援では関わりが少ない異年齢の利用者同士が交流できる機会とした。こうした体験を通して他者と楽しみや喜びを共有することが、社会性と自己肯定感の醸成につながっている。	・日常生活習慣の形成・改善支援 ①初回面談や学習支援中の会話、様子から生活面の課題把握 ②アセスメント ③できることを一緒に考える・目標設定 ④実践 ⑤改善に向けたアドバイス ・社会性の育成 他者との交流を通じてコミュニケーション力を高め、社会性の向上を目指す。 必要に応じて遊びを取り入れた季節のイベントなどを実施し「体験格差の解消」にも寄与。 ・キャリア検討会 進学やその後のキャリアを検討する機会を提供し、自身の今後の生活を具体的に描くきっかけとする。	・日常生活習慣の形成・改善支援 昨年度からの継続利用者は、当教室は小学校中学年から高校生までの異年齢の子どもが参加するため、全員にとって心地よい空間にするためには、お互いに配慮が求められることを学んでいる。そのため、今年度から新たに参加した利用者についても、互いに配慮して学習する姿勢を自然に身に付けることができている。 ・社会性の育成 7月初週には、七夕イベントとしてクイズ大会を開催。 七夕の由来や天体に関する知識を深め、遊びの要素を取り入れながら学習意欲の喚起にも繋げた。 実施場所に設置された大きな笹へ、参加者全員が願い事を書いた短冊をかざるなど、季節行事を楽しみ、体験格差の解消に寄与した。 ・キャリア検討会 秋ごろ実施予定。
保護者に対する養育支援	・子どもの養育に必要な知識の提供や助言 ①保護者との信頼関係を構築 ②養育に関する相談支援 子どもの頑張りや成長を共有することにより、保護者から子どもへの関わりがポジティブになるよう働きかけを行う。 ・進学に必要な公的支援の情報提供 保護者が進学に必要な情報を得られない場合に備え、必要となる情報を提供する。	・子どもの養育に必要な知識や助言 保護者が子どもの送迎のため来室する場合は、都度教室管理者から当日の様子や成長・変化を報告。保護者からは学習面のみならず、家庭内での子どもとの関わりについての悩みが共有されることもあり、保護者の思いに寄り添った姿勢で改善策やアドバイスを実施。 来室のない子どもの保護者に対しては、教室専用LINEを用いて対応。過干渉や子どもへの期待が高く、できない所に目がつき、子どもに対しネガティブな関わりが多く見受けられる場合は、子どもの目線に立ち、教室での様子をポジティブに共有して関わり方についての助言を行っている。 保護者との関わりについては、随時市に定期的に報告している。 ・進学に必要な公的支援の情報提供 令和7年度は利用登録者に受験生がおらず、進学に必要な公的支援の情報ニーズがないため未実施。	・子どもの養育に必要な知識の提供や助言 ①保護者との信頼関係を構築 ②養育に関する相談支援 子どもの頑張りや成長を共有することにより、保護者から子どもへの関わりがポジティブになるよう働きかけを行う。 ・進学に必要な公的支援の情報提供 保護者が進学に必要な情報を得られない場合に備え、必要となる情報を提供する。	・子どもの養育に必要な知識や助言 保護者が子どもの送迎のため来室する場合は、都度教室管理者から当日の様子や成長・変化を報告。保護者からは学習面のみならず、家庭内での子どもとの関わりについての悩みが共有されることもあり、保護者の思いに寄り添った姿勢で改善策やアドバイスを実施。 来室のない子どもの保護者に対しては、教室専用LINEを用いて対応。過干渉や子どもへの期待が高く、できない所に目がつき、子どもに対しネガティブな関わりが多く見受けられる場合は、子どもの目線に立ち、教室での様子をポジティブに共有して関わり方についての助言を行っている。 保護者との関わりについては、随時市に定期的に報告している。 ・進学に必要な公的支援の情報提供 中3生、高3生の世帯に対し、奨学金や補助制度等の情報提供を実施中。
その他	・欠席が続く子どもへの支援 訪問支援や同行支援など、教室参加へのハードルを下げる取り組みを行い、まずは支援員との関係性構築に努める。 上記を行っても、なお教室参加が困難な場合は、アウトリーチ型の自宅での学習支援を提案し、段階的な教室参加に繋げる。 ・アンケートによる効果測定 年度を通し定期的に学習面・生活面に関するアンケートを実施し、効果測定を行い事業評価に繋げる ・関係機関との連携 支援状況や支援を通して把握した子どもや世帯の課題については、すみやかに貴自治体や関係機関に報告。支援方針と役割分担を明確にし、関係機関との連携により課題を解決する。	・欠席が続く子どもへの支援 5月以降に利用申し込みのあったが、心身の課題により出席が数回に留まっている子どもについて、出席予定日に訪問支援・同行支援を実施した。 当該生徒に対しては、今後の状況に応じてアウトリーチ型の自宅での学習支援を提案したが、本人希望により実現には至らなかった。 ・アンケートによる効果測定 初回参加日、各学期末に実施済。 学習面・生活面ともに、ほぼすべての項目において肯定的な回答割合が上昇した。 ・関係機関との連携 毎月の総合相談連絡会へ参加し、子ども・世帯の情報共有を行うとともに、適宜、社会福祉協議会等の関係機関との連携を実施。また、利用者増のため、ケースワーカーや校長長向け事業説明会を行う等、相互連携のためネットワーク構築に努めた。	・欠席が続く子どもへの支援 訪問支援や同行支援など、教室参加へのハードルを下げる取り組みを行い、まずは支援員との関係性構築に努める。 上記を行っても、なお教室参加が困難な場合は、アウトリーチ型またはオンライン型の自宅での学習支援を提案し、段階的な教室参加に繋げる。 ・アンケートによる効果測定 年度を通し定期的に学習面・生活面に関するアンケートを実施し、効果測定を行い事業評価に繋げる ・関係機関との連携 支援状況や支援を通して把握した子どもや世帯の課題については、すみやかに貴自治体や関係機関に報告。支援方針と役割分担を明確にし、関係機関との連携により課題を解決する。	・欠席が続く子どもへの支援 現時点でアウトリーチ型を希望する世帯はないため、未実施。 オンライン型の学習支援については、不登校傾向のある生徒の保護者が希望しているが、本人が希望していないため実現に至っていない。 ・アンケートによる効果測定 初回参加日、1学期末（7月後半）に実施済。 今年度も各学期末、年度末にも実施予定。 ・関係機関との連携 毎月の総合相談連絡会へ参加し、子ども・世帯の情報共有を行うとともに、適宜、社会福祉協議会等の関係機関との連携を実施。また、利用者増のため、ケースワーカーや校長長向け事業説明会を行う等、相互連携のためネットワーク構築に努めている。